

漁況予報 いわし

第166号

2011年7～8月漁期
(2011年7月13日発行)

= 概況 =

【マイワシ】

主要定置網におけるマイワシ総漁獲量は、5月が141トン、6月が214トン（速報値）であり、いずれも前年（5月110トン、6月12トン）および平年（5月118トン、6月19トン）を上回りました。

魚体は、体長10～14cmのヒラゴ～小羽マイワシが主体で、6月後半には体長9～11cmのより小さなヒラゴも漁獲されました。これらはいずれも2011年生まれの子魚と推定されます。

佐島地区のまき網は、5月には鮮魚として小羽マイワシ主体の水揚げがあったほか、餌イワシとしてヒラゴ主体の漁獲が継続しました。

3～6月のシラス船びき網によるマシラス（マイワシ仔魚）の推定漁獲量は前年、平年を上回り（前年比4.8倍、平年比2.5倍）、近年では卓越年級群が発生した2008年に次ぐ水準でした。

【カタクチイワシ】

主要定置網におけるカタクチイワシ総漁獲量は、5月が146トン、6月が366トンと、ともに前年（5月785トン、6月559トン）および平年（5月749トン、6月699トン）を大きく下回りました。

魚体は、5月には体長12cm以上の大型成魚が主体でしたが、6月には体長9～11cmの小型成魚が主体で、9cm未満の未成魚も漁獲されました。

佐島地区のまき網は、餌イワシとしてヒラゴに混じっての漁獲が継続しましたが、低調に推移しました。

【シラス】

4月下旬から本格化した相模湾のシラス漁ですが、5月のシラス漁獲量（標本船データより推定）は、好漁だった前年および平年を大きく上回りました（前年比1.7倍、平年比2.3倍）。これは春シラス漁の本格化が例年より遅く、ピークが5月にずれ込んだことに加え、5月下旬に黒潮系暖水の波及により新たな群が補給されたためと考えられます。つづく6月の漁獲量は、平年並みの漁獲量でした（前年比2.7倍、平年比1.0倍）。

漁獲物は、5、6月とも例年どおりカタクチシラス（カタクチイワシ仔魚）が主体でした。

当所が実施した卵稚仔プランクトン調査による、6月の相模湾のカタクチイワシ卵の分布量は409粒／曳網であり、前年（844粒／曳網）および平年（853粒／曳網）を大きく下回りました。

= 予報 =

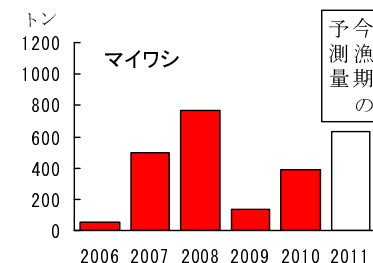
【マイワシ】

今漁期は、2010年生まれのヒラゴ～小羽マイワシ（体長10～14cm）が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、春季のマシラスの漁獲状況から、定置網を主体に、前年を上回る約630トンと予測されます。

* グラフ縦軸：主要定置網+まき網

過去5年の7・8月漁期の漁獲量
と今漁期の予測量

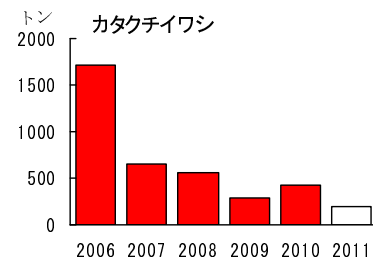


【カタクチイワシ】

今漁期は、小型～大型成魚（体長10～13cm）が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、5～6月の定置網漁獲量から、定置網を主体に、前年を下回る約200トンと予測されます。

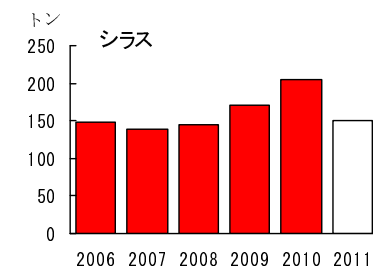
* グラフ縦軸：主要定置網+まき網



【シラス】

今漁期は、6月以降に発生したカタクチシラスが漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、6月の相模湾周辺のカタクチイワシ卵分布状況から、前年を下回る約150トンと予測されます。



神奈川県水産技術センター資源環境部
三浦市三崎町城ヶ島 (046)882-2313